
第 12 回アジア証券人フォーラムの開催について

平成 19 年 3 月 7 日～9 日

第 12 回アジア証券人フォーラム（Asia Securities Forum : ASF）が、「多様性の中での成長」をメインテーマに、フィリピン証券業者協会の主催により、去る 3 月 7 日から 9 日にフィリピン共和国 セブにおいて開催された。

本フォーラムは、日本証券業協会の提唱により、アジア・オセアニア地域の指導的業界人が一堂に会し、同地域における証券界の交流と証券市場の発展に寄与することを目的に、1995 年に発足したものである。

以下に今回のフォーラムの報告として、「第 12 回アジア証券人フォーラムの概要」及び「第 12 回アジア証券人フォーラムコミュニケ（仮訳）」を掲載する。

○ 第 12 回アジア証券人フォーラムの概要

1. 開催日時

自 平成 19 年 3 月 7 日（水）
至 平成 19 年 3 月 9 日（金）

2. 開催場所

フィリピン共和国 セブ

3. 主催者

フィリピン証券業者協会

4. 参加国（地域）

インド、インドネシア、オーストラリア、韓国、台湾、中国、日本、フィリピン、ベトナム、香港、マレーシアの 11 カ国（地域）からの約 30 名（ベトナムは初参加）。
なお、参加団体は、別紙 1 のとおり。

5. 内容

次の議題について、各国・地域の代表者による報告及び参加者による意見交換が行われた。

(1) カントリーレポート

各国・地域の経済・金融情勢及び証券市場・証券界の状況が報告された。

(2) ゲスト・スピーチ

ゲスト・スピーカーのマルガリト・テベス フィリピン財務大臣がスピーチを行い、アジア地域における流動性の増加に伴い、アジア通貨の為替は上昇し金利の低下と国内需要の上昇を招くこと、及び同地域の経済においては新たな富の管理が重要な課題であることを指摘した。

(3) 基調講演

アジア開発銀行シニアアドバイザー 宮地正人氏より「アジア債券市場イニチアティブにおけるアジア開発銀行の役割」と題する講演が行われた。講演において宮地氏は、アジア金融危機の再来を防ぐためには、株式市場のみならず、債券市場の発展についても協力を進めることが必要であることを指摘した。

また、ブルームバーグ・ニュース社コラムニスト ウィリアム・ペセク氏より「アジア市場の動向」と題する講演が行われた。講演においてペセク氏は、アジア市場の動向及び世界規模の潮流とアジア市場との関係について、その考えを述べた。

(4) パネルディスカッション

① 新たな金融イノベーション及び新たな顧客の構成

参加者は、金融イノベーション、顧客層及び投資スタイルについての現状及び今後の動向について討議した。

② 世界中の富の獲得及び管理

参加者は、2006 年においてアジア・オセアニア地域の各市場が投資家にとって魅力的であった理由及び投資家の関心を維持するための取組み等について議論を行った。

③ 証券市場のベターレギュレーション

参加者は、各市場における規制改善に向けての努力、その進展を妨げる問題及び問題への対応策等について討議を行った。

(5) ソーシャル・イベント

参加者間の意見交換及び親睦を図るため、ソーシャル・イベントが開催され、夕食会には、グロリア・マカパガル・アロヨ フィリピン大統領が出席した。

6. 今後の総会

次回総会は香港で、次々回総会はオーストラリアで開催される予定である。

以 上

(別紙1)

第 12 回 ASF 参 加 団 体

インド	インド証券取引所参加者協会(ANMI)
インドネシア	インドネシア証券会社協会(APEI)
オーストラリア	豪州金融市場協会(AFMA)
韓国	韓国証券業協会(KSDA)
台湾	中華民国証券商業同業公会(TSA)
中国	中国証券業協会(SAC)
日本	日本証券業協会(JSDA)
フィリピン	フィリピン証券業者協会(PASBDI)
ベトナム	ホーチミン市証券協会(HSC)
香港	香港証券会社協会(HKSA)
マレーシア	マレーシア証券会社協会(ASCM)

以 上

(別紙2)

コミュニケ（仮訳）
ー第 12 回アジア証券人フォーラムー

1. 第 12 回アジア証券人フォーラム（ASF）は、フィリピン証券業者協会（PASBDI）の主催により、フィリピン セブにおいて 2007 年 3 月 7～9 日にわたり開催された。
2. 今年の ASF は、「多様性の中での成長」をテーマとして行われた。このテーマは、今日の挑戦の機会に富んだ世界市場における、アジア資本市場の国境を越えた発展の可能性を反映したものである。参加者は、証券市場に関する意見及び情報を交換し、また、アジア・オセアニア地域における証券市場の発展及び経済成長について協議した。
3. アジア・オセアニア地域の参加団体から 30 名の代表が、このフォーラムに参加した。
4. PASBDI 会長ビビアン・ユチェンコ氏は、開会あいさつにおいて、アジア地域は、1997 年の金融危機から脱し、世界でも賞賛すべき成長を遂げていると指摘した。また、同会長は、ASF が創設から 12 年目を向かえるこの時期に、同地域の経済は、改善に向けて本来必要な調整を開始し、今後更なる成長に向かおうとしていると述べた。さらに、同会長は、今年のフォーラムを証券業界が進むべき将来を指向するものとするとの考えを参加者全員が共有するよう希望すると述べた。最後に、同会長は、2 日間にわたる今年のフォーラムで、この地域の見解、情報及び実りある意見の交換が行なわれることを期待する旨述べた。
5. ゲスト・スピーチにおいて、マルガリト・テベス財務大臣は、アジア地域における流動性の増加に伴い、アジア通貨の為替は上昇し、金利の低下と国内需要の上昇を招くこと、同地域の経済においては、新たな富の管理が重要な課題であることを指摘した。
6. ASF は、ベトナムを代表し新規に参加する、ナム・フー・ニュエン氏を歓迎した。同氏は、ベトナムの証券業者協会であるホーチミン市証券協会のメンバーである。
7. 各市場の代表は、経済レポートにおいて、最近の経済・金融情勢及び今後の発展に影響を与えうる当面の課題を報告した。大部分の市場について、顕著な成長が見られたが、2007 年の上半期には世界的にやや成長は減速すること、その後は回復することが報告された。

8. 「アジア債券市場イニチアティブにおけるアジア開発銀行の役割」と題する基調講演が、アジア開発銀行 宮地正人氏により行われた。宮地氏は、アジア金融危機の再来を防ぐためには、株式市場のみならず、債券市場の発展についても協力を進めることが必要であると強調した。
9. アジア市場の動向に関するゲスト・スピーチが、ブルームバーグ・ニュース社コラムニストのウィリアム・ペセク氏により行われた。ペセク氏は、アジア市場の動向及び世界規模の潮流とアジア市場との関係について、その考えを述べた。
10. 第一のパネル・ディスカッションでは、「新たな金融イノベーション及び新たな顧客の構成」について討議した。討議において参加者は、金融イノベーションによってリスクを以前に比べより早くかつより広範囲に分散させることが可能となり、アジアにおける過去数年の発展の成果は、その多くがこの金融イノベーションによりもたらされたと述べた。また、顧客の属性が、より知識を有しかつ力を有する投資家の登場により変化し、この動向が取引量及び取引金額の増加に寄与していることが強調された。パネリストは、金融イノベーション、顧客層及び投資スタイルについての現状及び今後の動向について討議した。
11. 「世界中の富の獲得及び管理」と題する第二のパネル・ディスカッションでは、パネリストは、国際的な投資家の多くが新興市場への投資を再開したという点において、2006年はアジア市場にとって特筆すべき年であったと報告した。パネリストは、投資家のアジア・オセアニア地域への関心を維持していく方策について討議した。参加者は、2006年の各市場が投資家にとって魅力的であった理由、また、競争の激しい世界市場において、投資家の関心を維持するための取り組みについて議論した。
12. 「証券市場のベターレギュレーション」と題する最後のパネルでも、パネリストが意見交換を行なった。規制の改善と証券・金融市場の透明性を求める動きが世界的に増大していることが指摘された。他の市場と同様に、アジアにおいても、規制及び透明性に関する世界的な基準達成を求める市場からの要求に対応しようとしているが、その進展は一樣ではなく、変革の進み具合にも差異があり、時には大きく異なっている。参加者は、アジアにおける改善に向けての努力及びコスト等迅速な進展を妨げる問題、さらにこれらに対処するための取り組みについて討議した。
13. メンバーは、日本及び韓国において、ASF 参加団体を主な対象とする研修セミナーが開催されたとの報告を、メンバー間の更なる協力の意義のある証左として歓迎した。

14. 香港の代表は、2008 年の第 13 回 ASF を主催する意図を表明した。また、オーストラリアの参加団体は、それに続く 2009 年のフォーラムを主催する意図を表明した。両提案は、すべての参加メンバーにより謝意とともに承認された。その後、PASBDI 会長ユチェンコ氏が閉会の辞を述べ、会合を終了した。

以 上